

床の遮音材 フロアタイル応援マット

施工のポイント

① 下地を平滑にする



下地の不陸は、1mで3mm以内

② 下地面に専用接着剤塗布



クシゴテを使う

③ 黒いゴム面を上にして床下地に接着



フェルト面が下です

④ フロアタイルを貼る



目的に応じた接着剤を塗る

アトピッコハウス(株) tel 0467-33-4210

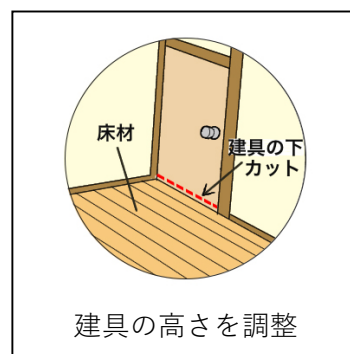
コンクリート床下地に直接張る場合

はじめに

床の遮音性能を要求される場合に効果を発揮するのが、床の遮音材(フロアタイル応援マット)です。コンクリート床面に直接、床遮音材(フロアタイル応援マット)を施工することで、フロアタイル、クッションフロア、コルクマットを施工することが出来ます。最大 LL35 までの遮音性能を発揮します。

施工前のご注意

1. 管理組合に提出する書類のご用意がありますので、ご相談ください。
2. 平滑なモルタル下地を作っていただく必要があります。
3. 部分的な凹凸は必ず補修してください。また、下地の不陸は1 mで3 mm以内としてください。
大きな不陸があると、「浮き」の原因になります。
4. モルタル等で補修した場合、下地を十分に乾燥させてください。
5. 下地表面は、不陸の原因となる異物を綺麗に取り除いてください。
6. フロアタイル応援マットは床暖房対応品です。床暖房の上下どちらにも設置可能です。
7. フロアタイル応援マットは、水洗い厳禁です。フェルト部分が水を吸ってしまいます。
8. フロアタイル応援マットを挟んだ分だけ、床の高さが既存より高くなる場合は、建具(ドア)の下を切って調整できます。



※試験結果は、第三者機関に於ける性能評価試験の測定結果です。遮音の試験条件は1種類でのみ実施しております。実測値であり、現場での性能を保証するものではありません。

手順 1：床遮音材(フロアタイル応援マット)の敷き込み

1. 下地の準備が出来たら、下地面に専用接着剤（UN-5011、UN-7010）をクシゴテで均一に塗布してください。※ 際根太を設置する場所は、あらかじめフェルト部分を除去しておく。
2. フェルト面を下にして、フロアタイル応援マットを敷き込んでください。
3. 壁の周囲、敷居際等は、荷重による沈み込みを防止するため、必要に応じて際根太を設置します。
※フェルトの部分をカッターなどで取り除き、その部分に同じ厚み（8mm）の際根太を入れる。



手順 2：合板を捨貼りする際のご注意

1. しっかりした踏み心地を希望される場合は、厚さ 9 mm 以上の不陸のない品質のいい合板の捨て貼りを推奨します。但し、試験条件は 1 種類でのみ実施しております。採用に当たっては、現場でご判断ください。
2. 合板を捨て貼りする場合は、貼り始め、貼り仕舞(部屋の周辺部等)は、3～5mm 隙間を空け、継ぎ目が同じ位置にならないよう千鳥（交互）に張ってください。また合板の伸縮を考え、適度なエキスパンション（1～2mm 程度）を取ってください。
※改正建築基準法に適合した合板を使用してください。
3. 合板の継ぎ目などの段差は、0.5mm 以下になるように施工してください。
4. 捨貼合板はしっかりと、フロアタイル応援マットに接着固定させてください。
5. 下地表面は、不陸の原因となる異物を綺麗に取り除いてください。



木下地に張る場合

はじめに

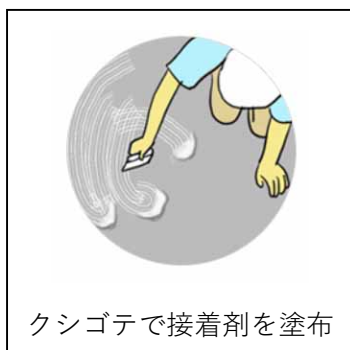
床の遮音性能を要求される場合に効果を発揮するのが、床の遮音材(フロアタイル応援マット)です。木下地にも施工できますが、遮音の試験条件は 1 種類でのみ実施しております。採用に当たっては、現場でご判断ください。

施工前のご注意

1. フロアタイル応援マットを挟んだ分だけ、床の高さが既存より高くなる場合は、建具(ドア)の下を切って調整できます。
2. フロアタイル応援マットは床暖房対応品です。床暖房の上下どちらでも設置可能です。
3. フロアタイル応援マットは、水洗い厳禁です。フェルト部分が水を吸ってしまいます。

手順 1：床遮音材(フロアタイル応援マット)の敷き込み

1. 下地の準備が出来たら、下地面に専用接着剤（UN-5011、UN-7010）をクシゴテで均一に塗布してください。※ 際根太を設置する場所は、あらかじめフェルト部分を除去しておく。
2. フェルト面を下にして、フロアタイル応援マットを敷き込んでください。
3. 壁の周囲、敷居際等は、荷重による沈み込みを防止するため、必要に応じて際根太を設置します。
※フェルトの部分をカッターなどで取り除き、その部分に同じ厚み（8mm）の際根太を入れる。



※試験結果は、第三者機関に於ける性能評価試験の測定結果です。遮音の試験条件は 1 種類でのみ実施しております。実測値であり、現場での性能を保証するものではありません。

手順 2：合板を捨て貼りする際のご注意

1. 捨て貼りなしで、直接フロアタイルを貼ることが出来ますが、しっかりした踏み心地を希望する場合、厚さ 9 mm 以上の不陸のない品質のいい合板の捨て張りを推奨します。但し、試験条件は 1 種類でのみ実施しております。採用に当たっては、現場でご判断ください。
2. 合板を捨て貼りする場合は、貼り始め、貼り仕舞(部屋の周辺部等)は、3～5mm 隙間を空け、継ぎ目と同じ位置にならないよう千鳥(交互)に張ってください。また合板の伸縮を考え、適度なエキスパンション(1～2mm 程度)を取ってください。
※改正建築基準法に適合した合板を使用してください。
3. 合板の継ぎ目などの段差は、0.5mm 以下になるように施工してください。
4. 捨て貼合板はしっかりと、フロアタイル応援マットに接着固定させてください。
5. 下地表面は、不陸の原因となる異物を綺麗に取り除いてください。



仕上げ材の施工方法

仕上げ材の施工方法については、各メーカーの施工要領に従ってください。

フロアタイルの標準的な施工方法は、以下の通りです。イラストは、捨て貼りありの場合です。

フロアタイル貼り

1. 床の掃除と下地調整

家具を移動させ、床のホコリやゴミをきれいに掃除機で吸い取り、油分も拭き取ります。床に凹凸や段差がある場合はパテ等で平らに整えておきます。

2. 基準線の墨出し

部屋の中央（長方形であれば一番長い辺の中心）に縦横の十字の基準線を引きます。ここから貼り始めることで、壁際のバランスが整い、仕上がりが美しくなります。

※フロアタイル応援マットのジョイントと重ならないように注意する。

3. 接着剤の塗布

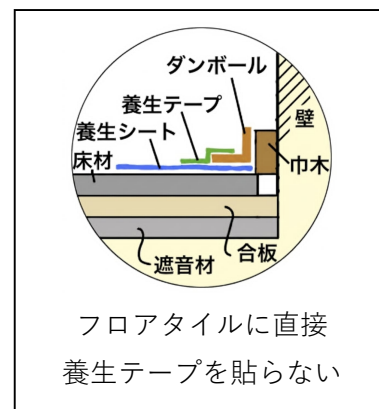
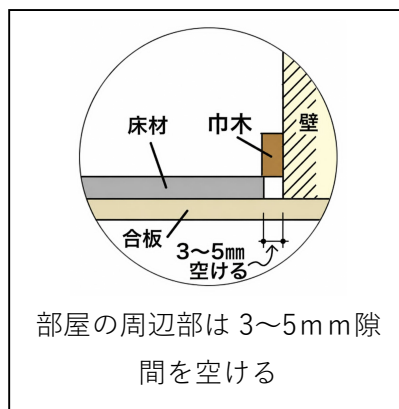
基準線に合わせて床に専用の接着剤を塗り広げます。一度に広い面積に塗らず、フロアタイルを貼れる範囲（数平米ずつ）に分けて塗るのが失敗しないコツです。

4. フロアタイルの貼り付け・カット

接着剤が手につかない程度に乾いたら、基準線に沿ってフロアタイルを並べ、しっかり圧着します。壁際や障害物に当たる部分は、フロアタイルを重ねて印をつけ、カッターで数回切れ込みを入れてカットします。

5. 壁際の処理

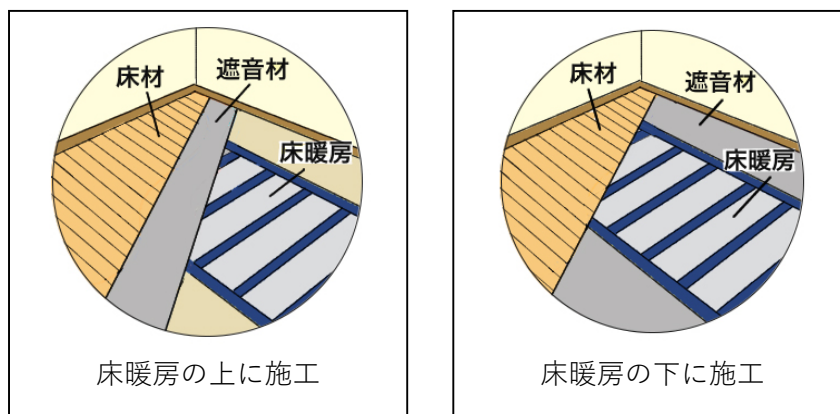
すべてのフロアタイルを貼り終わったら、フロアタイルと壁の間に数ミリ程度の「隙間（エクスパンションジョイント）」をわざと設けるか、コーキング剤で隙間を埋めて完成です。温度変化によるフロアタイルの膨張・収縮で浮き上がるのを防ぎます。



床暖房の工事と併用する場合

フロアタイル応援マットは床暖房対応品です。特別な施工方法は必要ありません。

床暖房の上下どちらにも設置可能です。施工方法は、床暖房メーカーにお問合せください。



フローリングと塗り壁の専門店

アトピッコハウス株式会社

〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下 2-6-5

T E L : 0467-33-4210 F A X : 0467-33-4212

<https://www.atopico.com/> info@atopico.com